

# お知らせ



平成26年10月31日

資料提供先

岡山県政記者クラブ

岡山市政記者クラブ

## 百間川分流部改築における 歴史的遺構の保存・保全方法が決定しました！！ ～安全・安心な川づくりと歴史的遺構の保全に向けて～

岡山河川事務所では、百間川分流部改築において、歴史的遺構の保全と共に分流部の治水機能を継承する具体的な保全方法及び施設構造等のとりまとめを行ってまいりました。

この度、平成25年11月に「百間川分流部保全方策検討委員会」を設置し、平成26年10月30日開催の第4回まで、有識者からのご助言を頂き、治水上の安全性を確保したうえで、歴史的遺構の保存・保全方法を下記のとおり決定いたしました。

- ・一の荒手：巻石部（亀の甲）を保全（補強）します。解体後、コンクリートにより補強し、現状の石を使い元の形状・積み方で復元を行います。
- ・二の荒手：低水路部の石張りを保全（補強）します。解体後、コンクリートにより補強し、現状の石を使い元の形状で復元を行います。高水敷部の石張りを現状保存します。左岸導流堤を保全（補強）します。
- ・背割堤：背割堤をかさ上げし、暗渠・水制状石積みを土中に保存します。

また、歴史的遺構の保存・保全と合わせて、関係機関と調整し、百間川の歴史・文化の周知にも努めます。

### 〈補足説明〉

百間川は、江戸時代に造成された放水路で、先人の考案・築造した河川を改修することで、現在も岡山市街地を洪水から守っています。国により昭和40年代より進めてきた百間川の大規模な改修は、最下流端の河口水門が完成を目前に控え、分流部の改築を残すのみとなります。

岡山河川事務所では、これまで、有識者や地域のみなさまのご意見を伺いながら安全・安心な川づくりと、歴史的な石積みの構造物である一の荒手、二の荒手の保全の両立を目指してきました。

### □問い合わせ先

国土交通省 中国地方整備局 086-223-5101（代表）

岡山河川事務所 副 所 長 かわしま 川島 あきまさ 明昌（内線 205）

調査設計課長 にご 兒子 しんや 真也（内線 351）

# 百間川分流部改築計画平面図(案) ～歴史的遺構の保存・保全(補強)～

# 百間川分流部改築計画平面図(案) ～歴史的遺構の保存・保全(補強)～

旭川と百間川の計画分流比を確保し、洪水から岡山市街地及び百間川沿川を守るため、背割堤のかさ上げ、背割堤の切り下げ等の分流部の改築を実施する計画です。分流部周辺においては、「百間川一の荒手及び背割堤」と「百間川二の荒手」は埋蔵文化財包蔵地に認定されており、治水上の安全と歴史的遺構の保全に配慮し、下記の保全方策を実施いたします。



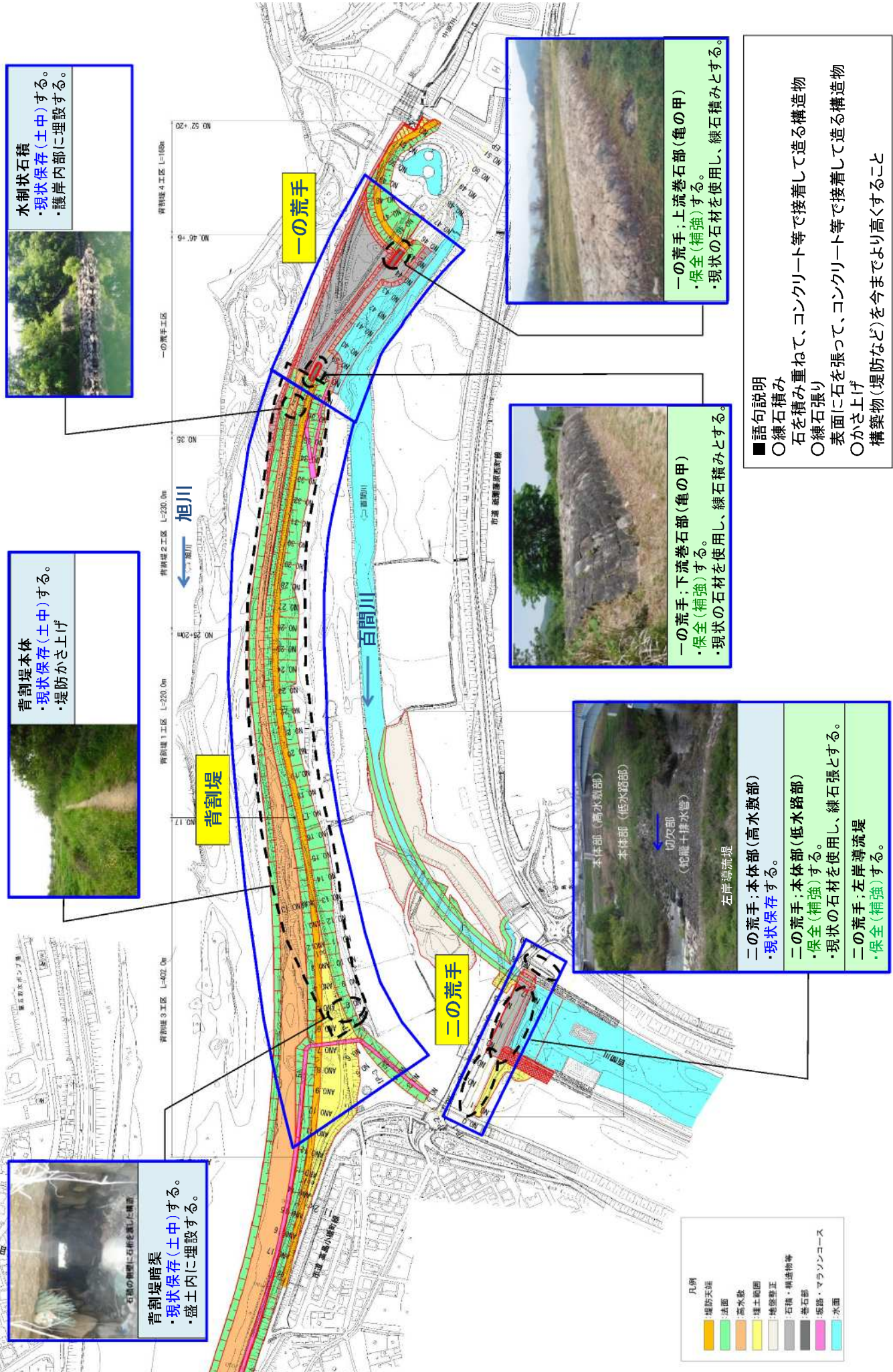
**背割堤暗渠**  
 ・現状保存(土中)する。  
 ・盛土内に埋設する。



**背割堤本体**  
 ・現状保存(土中)する。  
 ・堤防かさ上げ




**水制状石積**  
 ・現状保存(土中)する。  
 ・護岸内部に埋設する。



**背割堤**

**一の荒手**

**二の荒手**



本体部(高水敷部)  
 本体部(低水路部)  
 切欠部  
 (配筋+排水管)  
 右岸導流堤

**二の荒手; 本体部(高水敷部)**  
 ・現状保存する。

**二の荒手; 本体部(低水路部)**  
 ・保全(補強)する。  
 ・現状の石材を使用し、練石張とする。

**二の荒手; 左岸導流堤**  
 ・保全(補強)する。



**一の荒手; 下流巻石部(亀の甲)**  
 ・保全(補強)する。  
 ・現状の石材を使用し、練石積みとする。



**一の荒手; 上流巻石部(亀の甲)**  
 ・保全(補強)する。  
 ・現状の石材を使用し、練石積みとする。

- 語句説明
- 練石積み  
石を積み重ねて、コンクリート等で接着して造る構造物
  - 練石張り  
表面に石を張って、コンクリート等で接着して造る構造物
  - かさ上げ  
構築物(堤防など)を今までより高くすること

- 凡例
- 堤防天壁
  - 法面
  - 高水敷
  - 埋土範囲
  - 地盤整正
  - 石積・構造杭等
  - 巻石部
  - 築路・マランコンコース
  - 水面

# 百間川分流部改築イメージ



②  
現況の背割堤を活かして堤防の嵩上げを行い、暗渠を保存(土中)します。旭川堤防と百間川堤防の重なる場所(平場)が広くなります。



①  
一の荒手巻石部(亀の甲)を保全(補強)します。越流部等は、巻石部と調和した石積みとし強固な構造とします。

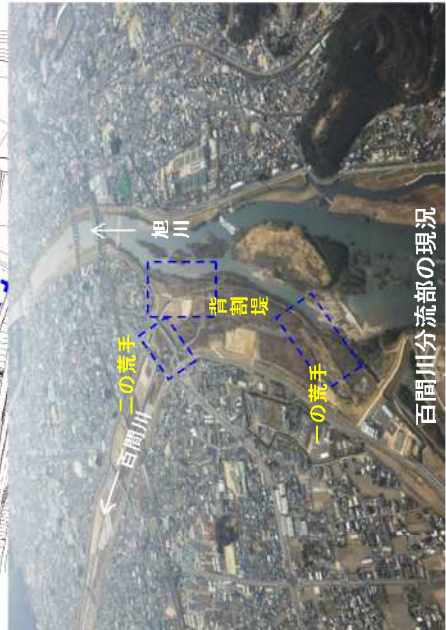


凡例

堤防天端	法面	高水敷	埋土範囲	地盤整工	石積・構造物等	巻石部	堤防・マランコース	水面
黄線	緑線	茶色	黄色	灰色	石積	巻石部	堤防・マランコース	水色



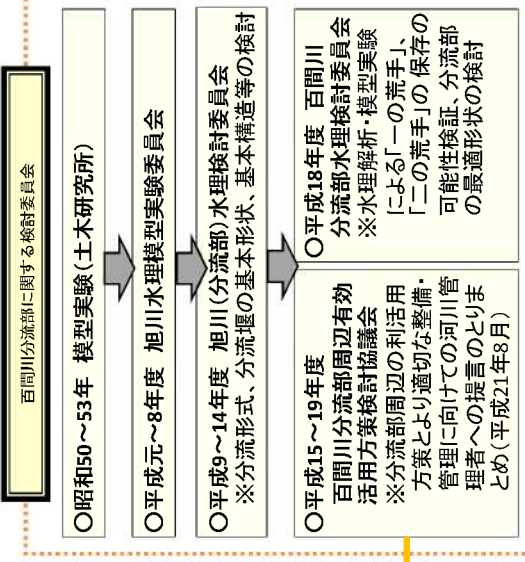
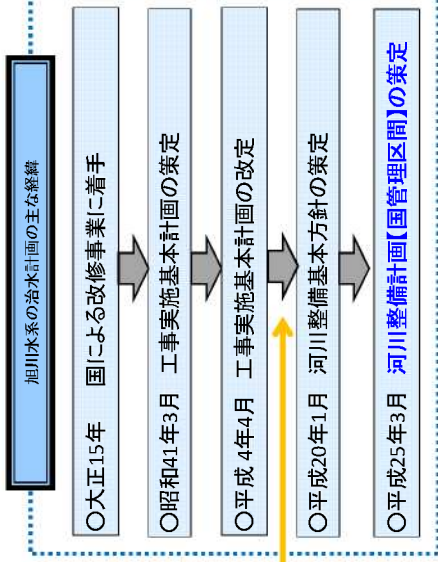
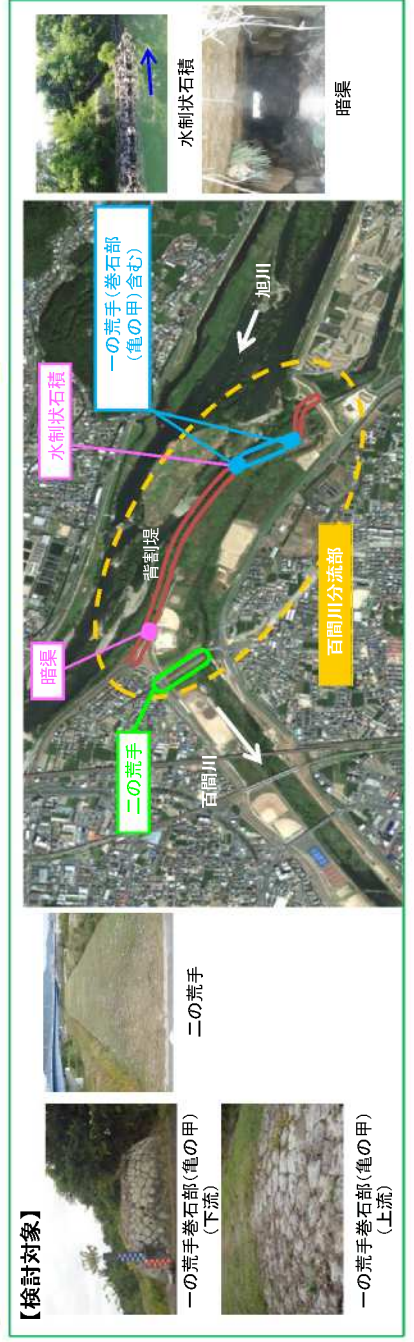
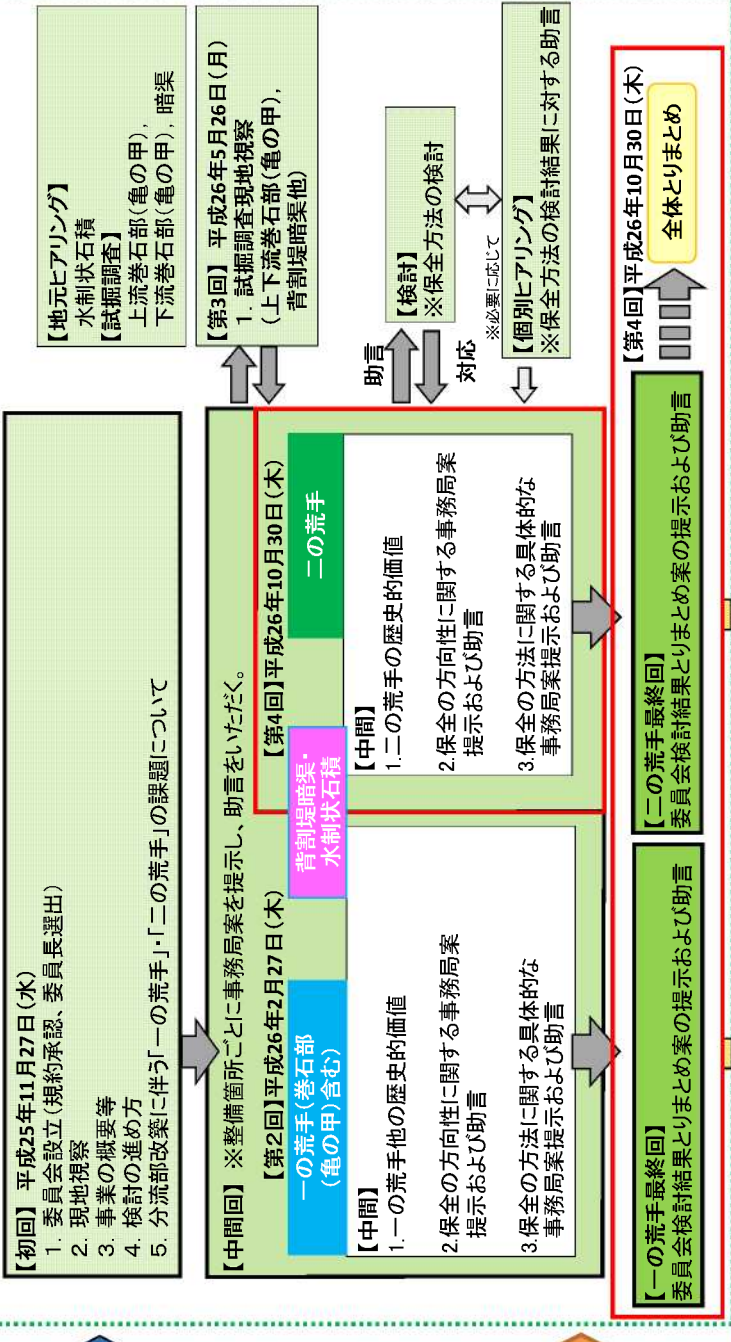
③  
二の荒手の高水敷部を現状保存、低水路部・左岸導流堤を保全(補強)します。二の荒手の石積み全体が見えるようになりまます。また、仮復旧の状態だった切欠き部を二の荒手本体と調和するよう改築します。



百間川分流部の現況

### 百間川分流域部保全方策検討委員会

岡山河川事務所が整備計画の趣旨に則り、歴史的遺構である「一の荒手」「二の荒手」の保全と共に分流域の治水機能を継承する具体的な保全方法及び施設構造等のとりまとめを行うにあたり、学識経験者から技術的助言をいただくことを目的として設置



**■提言**

**【一の荒手の保全活用】**  
 ・一の荒手に残っている「巻石部(亀の甲)」については現在の位置で本来の機能を持たせつつ保全を行う。

**【二の荒手の保全活用】**  
 ・現状で保存することを原則とするが、一部補修を行う。

## 参考 2

### 百間川分流部保全方策検討委員会 組織

#### 委員名簿

氏 名	所 属	分 野
稲田 孝司	岡山大学名誉教授	文化財
樋口 輝久	岡山大学大学院環境生命科学研究科 准教授	土木遺産
前野 詩朗	岡山大学大学院環境生命科学研究科 教授	河川工学
万城 あき	(公財)岡山県郷土文化財団 主任研究員	郷土史

(敬称略 五十音順)

#### オブザーバー名簿

役 職	氏 名
岡山県 教育庁文化財課長	山田 寛人

(敬称略)

## 参考：百間川分流部改築の概要 歴史について

- 百間川分流部は、江戸時代に岡山城下の洪水被害軽減等を目的に熊沢蕃山が越流堤防により流水を東南へ吐かす「川除けの法」を考案しました。
- その後、貞享3年(1686年)、津田永忠により堤や荒手を備えた放水路が築造され、一定量を越えた旭川の水が荒手堤を越えて百間川側へ放出させ、城下を洪水から守る仕組みを実現させました。
- 三段(3ヶ所)の荒手により水勢を弱めながら旭川の洪水を下流に越流・放水させます。
- 二の荒手、三の荒手は洪水時の土砂溜め機能を有していました。(三の荒手は明治25年洪水で流出し現存しません。)

### 分流部三段の荒手のしくみ

旭川の水量が増加

「一の荒手」を越流

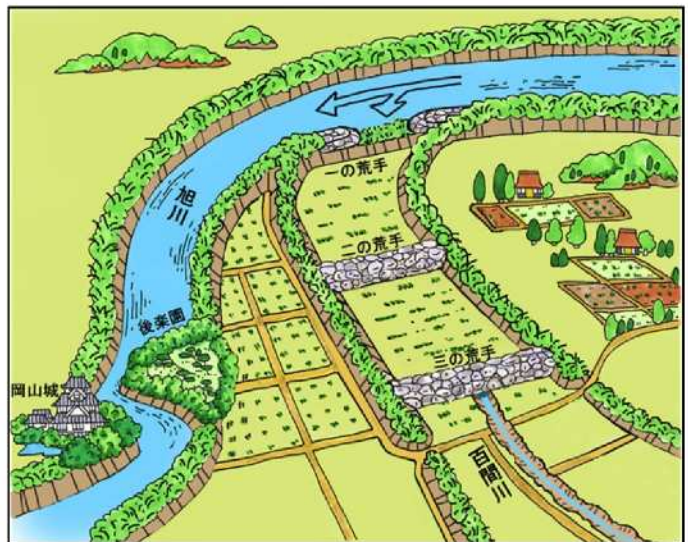
「一の荒手」と「二の荒手」の間に貯留され土砂を沈殿

さらに水量が増加

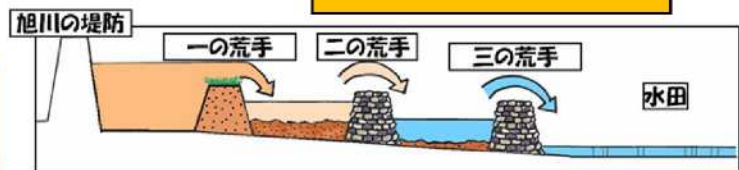
「二の荒手」、「三の荒手」を超えて百間川に流入

#### 【荒手の効果】

- ・洪水の流れる速度を抑制
- ・砂の流出を抑制



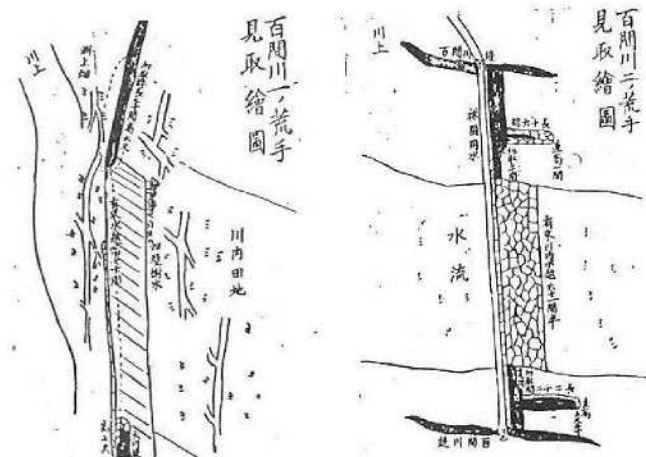
三の荒手は現存せず



### 歴史的遺構

一の荒手、二の荒手は、江戸時代に百間川と合わせて築造された貴重な歴史的遺構であり、二の荒手は文化財として、発掘調査等も行われています。

これらの分流部の歴史的遺構は、学識者や地域住民等で構成される協議会において、保全活用の提言が出されています。



1814年(文化11年)に作成された  
一の荒手・二の荒手の見取り絵図

出典：百間川改修誌 岡山河川工事事務所